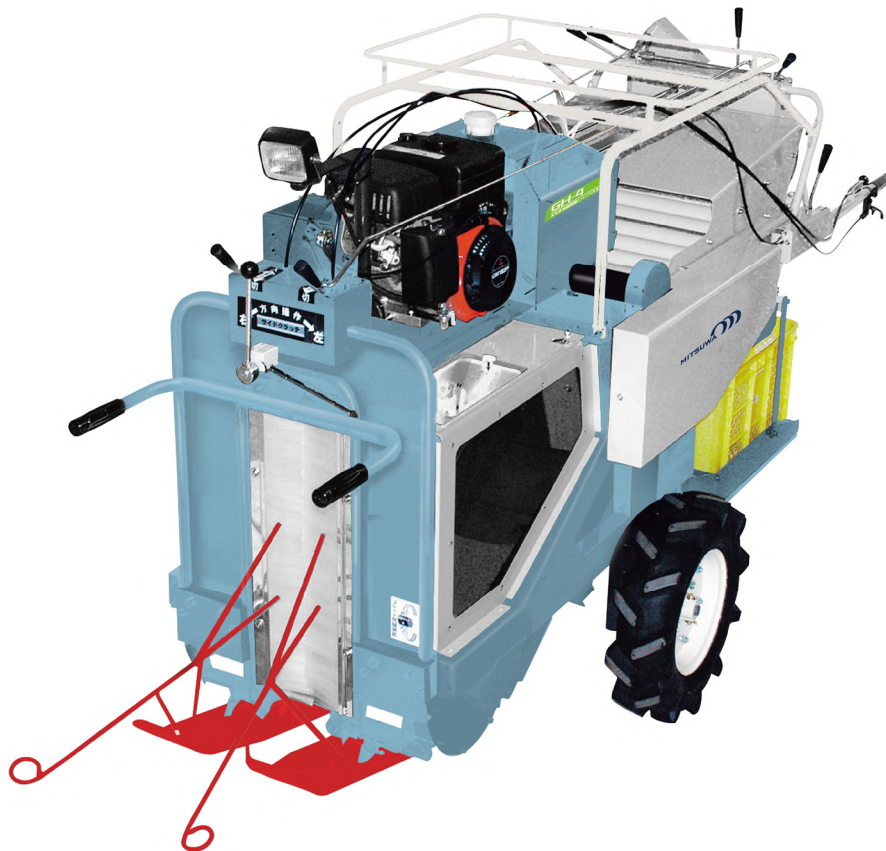


# えだまめハーベスター GH-4 取扱説明書 保証書付

---



株式会社 ミツワ

〒959-0112 新潟県燕市熊森 1345  
電話(0256)98-6161  
FAX(0256)98-6171  
URL: <http://www.kk-mitsuwa.com>  
E-mail: [mitsuwa@kk-mitsuwa.com](mailto:mitsuwa@kk-mitsuwa.com)

Ver2.01

## 目次

◇ご使用まえに◇ .....	1	◇不調の場合の処置◇ .....	12
◇安全にお使い頂くために◇ .....	1	◇手入れのしかた◇ .....	14
《警告ラベルとその貼付場所》 .....	2	1 定期点検整備表 .....	14
《安全作業をするために》 .....	3	2 作業後の点検と清掃 .....	15
◇主な名称◇ .....	5	①エンジンの点検 .....	15
◇上手な運転のしかた◇ .....	6	②トランスミッション点検 .....	15
1 給油・注油 .....	6	③タイヤの点検 .....	15
2 エンジンの始動と停止 .....	7	④コンベア部の清掃 .....	15
①始動のしかた .....	7	⑤脱莢部・扱室内の清掃 .....	15
②停止のしかた .....	7	3 調整のしかた .....	16
③駐車ブレーキ .....	7	①レバーの点検・調整 .....	16
3 走行のしかた .....	8	②ベルトの点検・調整 .....	17
4 トラックへの積込み・積降ろし .....	9	③脱莢部・コンベアの点検・調整 ..	18
①ハーベスターの扱い方 .....	9	④ブレード交換の仕方 .....	19
②トラック・アユミ板について .....	9	◇格納時の手入れ◇ .....	20
◇上手な運転のしかた◇ .....	10	1 機体の清掃と水洗い .....	20
1 作業前の準備 .....	10	2 注油・サビ止め .....	20
①作物と圃場条件 .....	10	3 エンジンの手入れ .....	20
②圃場の準備 .....	10	4 格納 .....	20
③もぎとり作業の手順 .....	11	◇付表◇ .....	21
2 運転操作 .....	11	1 主要諸元 .....	21
3 操作・走行速度 .....	11	2 ベルト・チェーン一覧表 .....	22
4 脱莢ブレードの間隔 .....	11	3 主な消耗部品一覧表 .....	23
		4 潤滑油について .....	25
		保証について .....	裏表紙

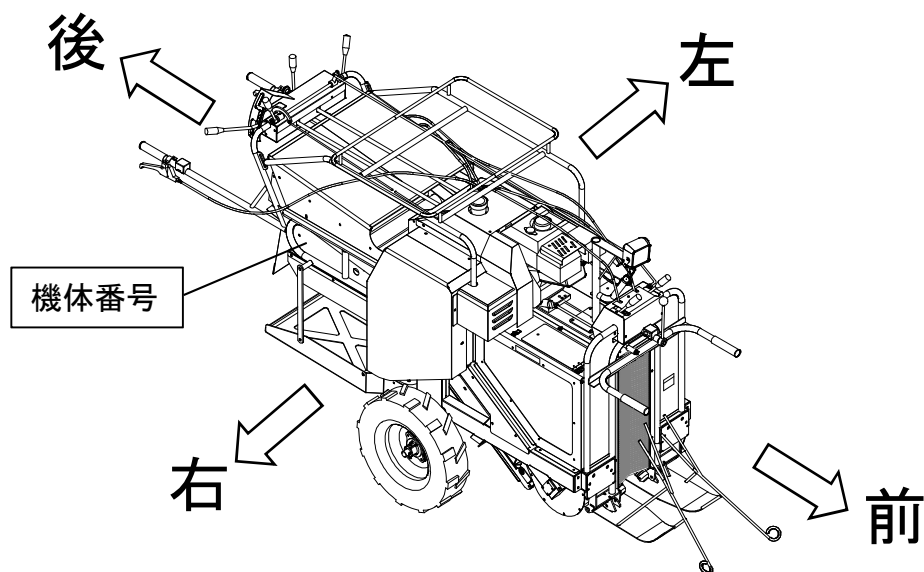
# ◇ご使用まえに◇

このたびは、えだまめハーベスター《GH-4型》をお買い上げいただき有難うございます。

この《取扱説明書》では、製品の正しい取り扱い方法や、簡単な点検および手入れなどについて説明しております。よくお読みいただき製品の性能を十分に発揮させ、より安全で快適な作業をしていただきますようお願いいたします。

このハーベスターには《機体番号》が図示のところに表示してあります。サービスについてのお問い合わせや、部品などのご用命は《お買い上げ先》に《型式名・機体番号》などをあわせてお知らせください。

また、この取扱説明書で使用している《前後・左右》などの用語は、図示のように決めております。



なお、この製品は改良のため《取扱説明書》の内容と多少異なるところが生ずることがあります。あらかじめご了承ください。

# ◇安全にお使い頂くために◇

この取扱説明書では、大切なポイントを次のマークで表示して、それぞれ注意をうながしています。特に注意して読んで、安全作業のためによく理解してください。

〈マーク〉

〈危険度のめやす〉



**警告**

…………… 重大な傷害を引き起こす危険性。



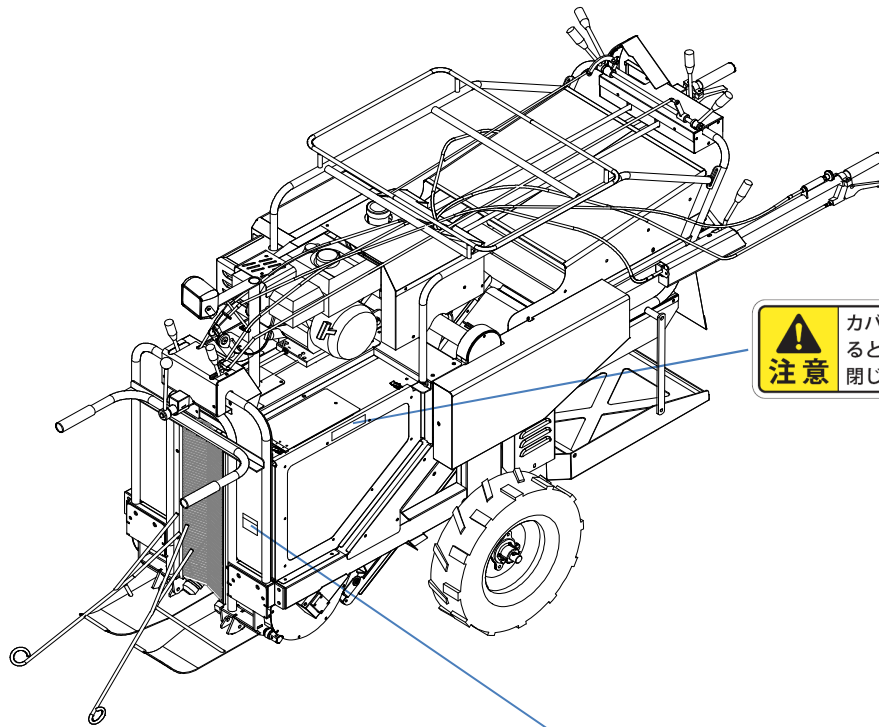
**注意**

…………… その他の傷害を引き起こす危険性。  
および、製品自体の損傷を起こす危険性。

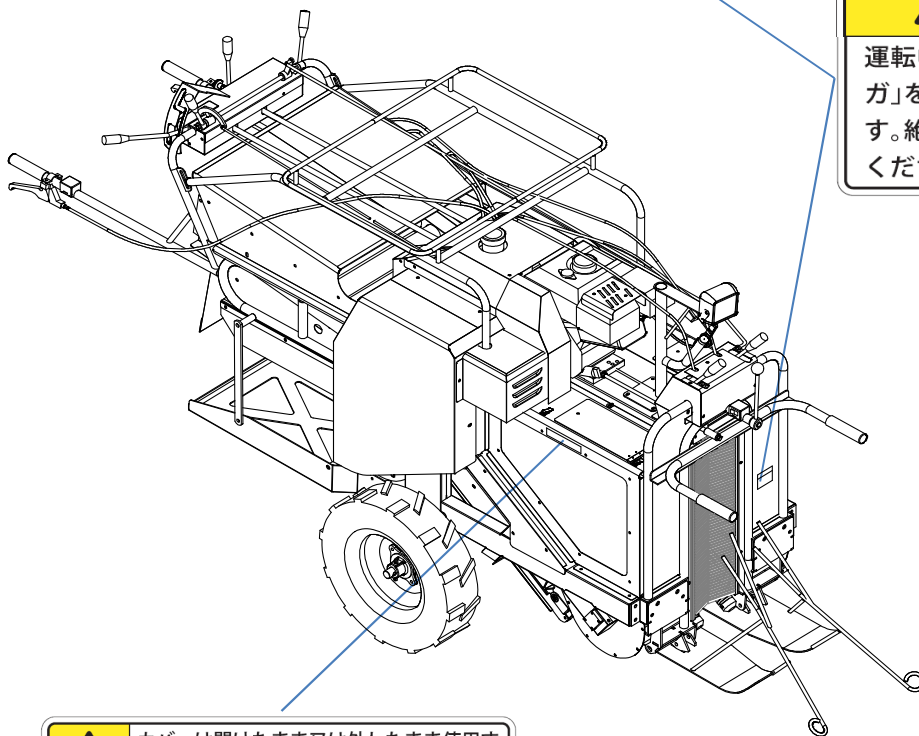
# 《警告ラベルとその貼付場所》

以下の、《警告ラベル》は、重要警告事項の中から、特に重要なものとして機体に添付されています。使用前に必ず良く読んで理解し、お守りください。

また、ラベルがはげたり、文字が消えて見えなくなったりした場合はすぐに《お買い上げ先》に連絡して、新しいラベルに取り替えてください。



**注意** カバーは開けたまま又は外したまま使用すると「ケガ」をするおそれがあります。必ず閉じる又は取り付けて使用してください。



**注意**  
運転中に手を入れると「ケガ」をするおそれがあります。絶対に手を入れないでください。

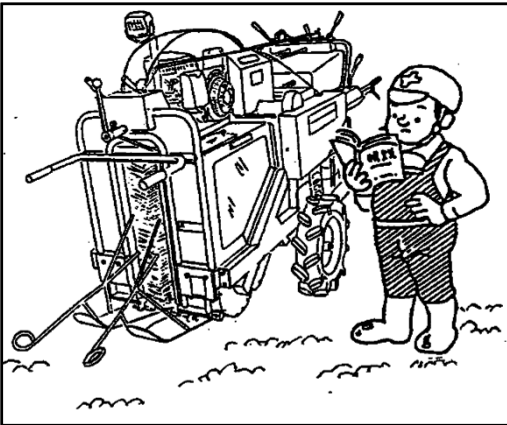
**注意** カバーは開けたまま又は外したまま使用すると「ケガ」をするおそれがあります。必ず閉じる又は取り付けて使用してください。

# 《安全作業をするために》

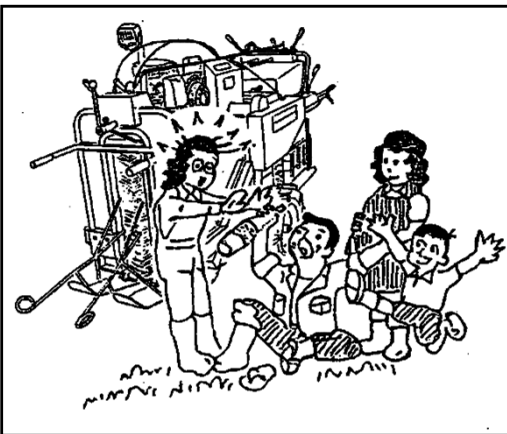
安全な作業をしていただくためには、まず機械の性能を十分に理解し、正しい取り扱いをすることが基本となります。この《取扱説明書》を、良くお読みいただいて事故のない楽しい作業をしてください。

## 1 運転者の条件

- ① この《取扱説明書》をくり返し読んで機械の取り扱いを十分に理解し、正しい運転操作をしてください。



- ② 「身体の調子が正常でない」などで機械の正常な取り扱いが出来ない人、および「16才未満の人」は、運転をしないでください。

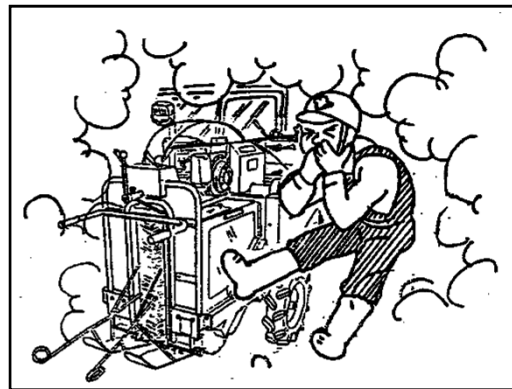


## 2 人に機械を貸すときは

貸し出す前に、よく「取り扱い方」や、この「安全作業をするために」を説明し、さらにこの《取扱説明書》を十分に読むように指導してください。

## 3 エンジンの始動

- ① エンジンを始動するときは、必ず「走行クラッチ」を《切り》にし「チェンジレバー」も《中立(N)》にしてください。
- ② 屋内など換気の悪い場所で、エンジンを運転するときは《排ガス中毒》の危険があります。  
《窓や戸》を開け、換気には十分注意しましょう。



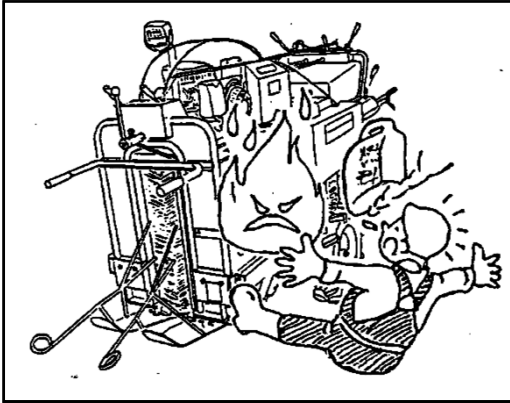
- ③ エンジンを始動し、発進するときは、周りに人がいないか確かめてください。

## 4 点検・整備

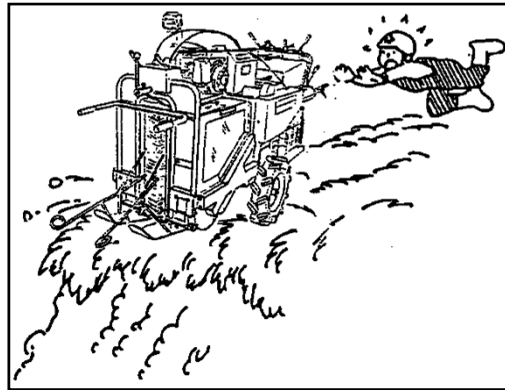
- ① この《取扱説明書》を参考に「始業点検」を行ない、いつも機械が正常に働き、安全な状態であるようにしてください。

② 掃除・点検・整備をするときは**《平坦な場所》**で、必ず**《エンジンを停止》**してから作業をしてください。

③ 燃料の補給は**《火気厳禁》**を心掛け、エンジンが動いているとき、または停止直後の**《過熱した状態》**で給油してはいけません。



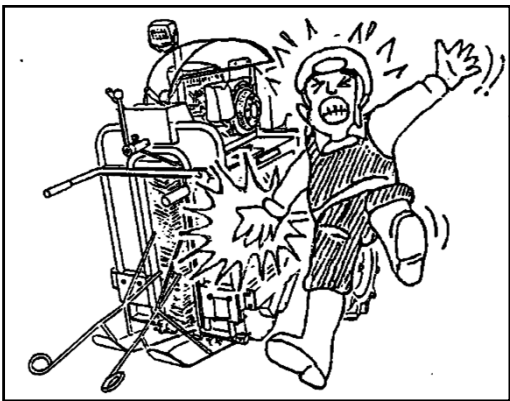
③ 手放し（無人）運転はできるだけ避け、やむをえず手放し運転をするときは、いつでも機械を停止することが出来る様に配慮して作業してください。



④ 機械から離れる場合は**《平坦な場所》**を選び、エンジンを止めてください。

## 5 安全な作業

① 回転部や作動部、マフラーなど**《危険な箇所》**には手を触れない様に注意してください。



② 2人以上で作業をするときは、回転部を動かす前に互いに**《声を掛け合い》**安全を確かめましょう。  
・作業に関係のない人は機械に近づけないようにしてください。

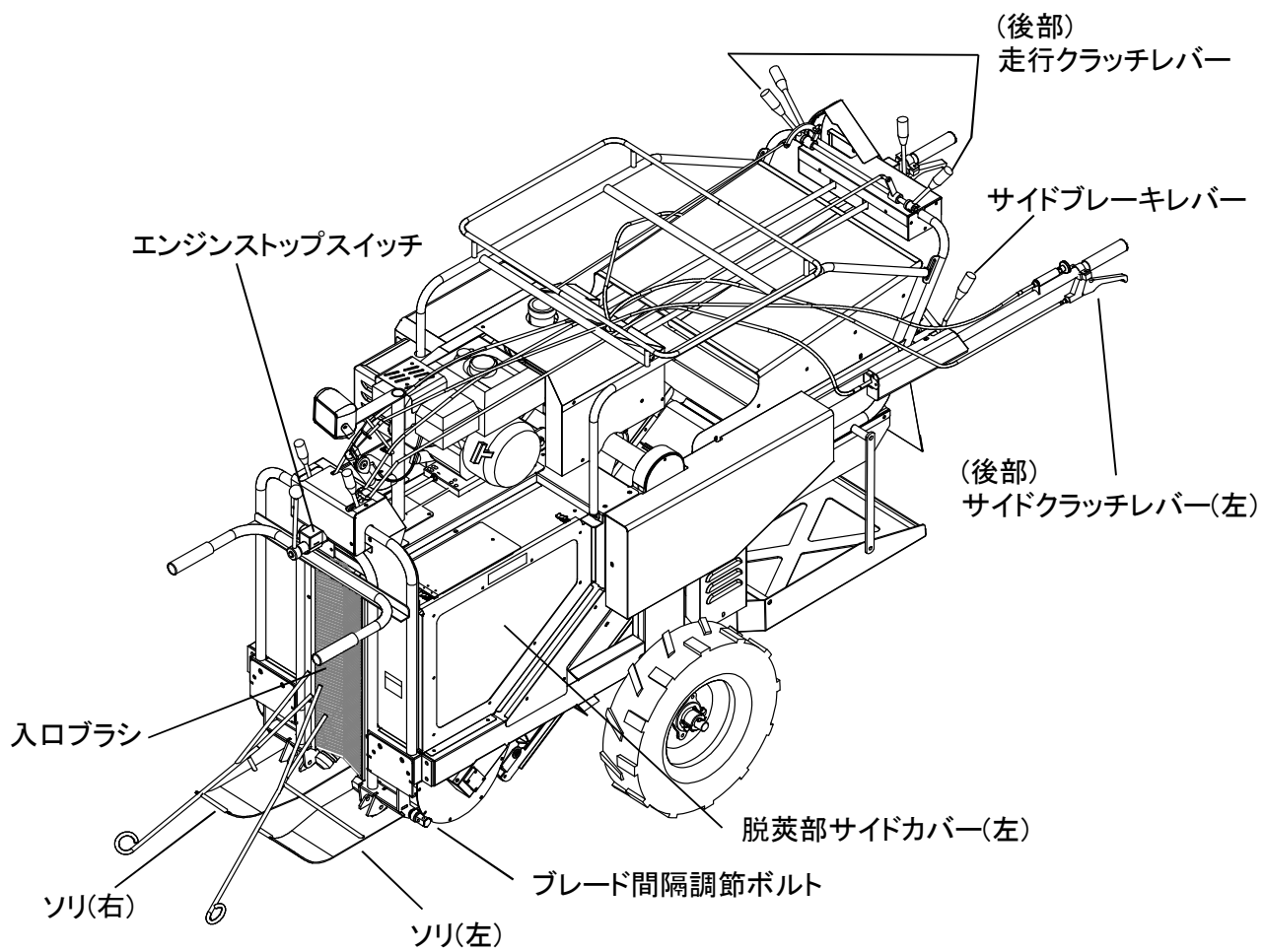
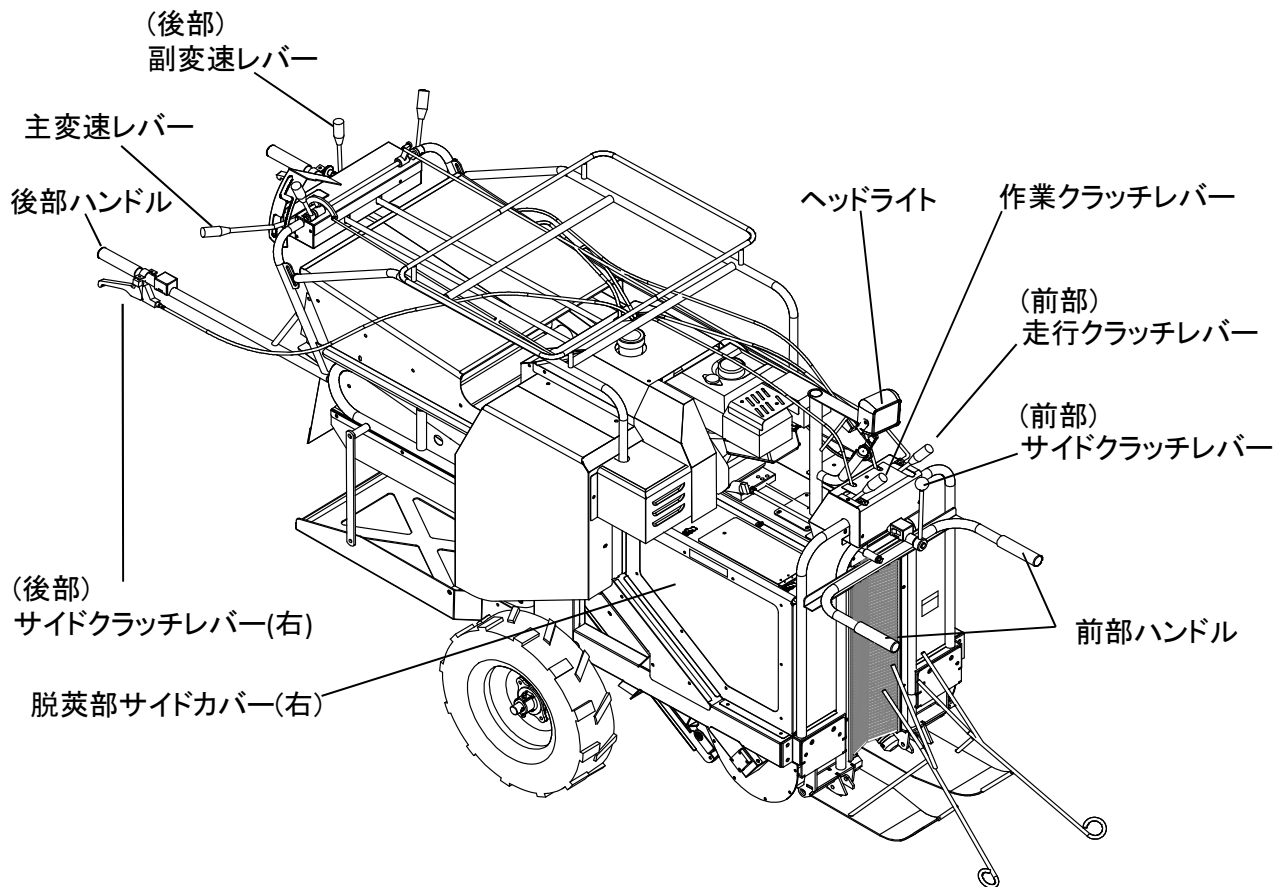
## 6 積み込み・積降ろし

(本文 9頁 4 トラックへの積み込み・積降ろし欄もお読みください。)

- 機体後部のハンドルをにぎると、機体前部の**《ソリ》**が見えませんが、必ず**《助手》**をつけてください。
- **《後部ハンドル》**が、非常に低い位置まで下がりますので注意してください。

- ① **《平坦な場所》**を選び、トラックは駐車ブレーキをかけてください。
- ② アユミ板は**《トラックの荷台高さ》**の4倍以上の長さがあり、丈夫で**《滑り止め》**をしたものを確実に固定して使用して下さい。
- ③ 積み込み・積降ろしは、必ず**《低速》**で行なってください。
- ④ 積み込み・積降ろし中は**《走行クラッチ・サイドクラッチ》**の操作は危険ですから絶対にしないでください。
- ⑤ 高低差がある圃場への出し入れの際は必ず**《アユミ板》**を使用してください。

# ◇主な名称◇



# ◇ 上手な運転のしかた ◇

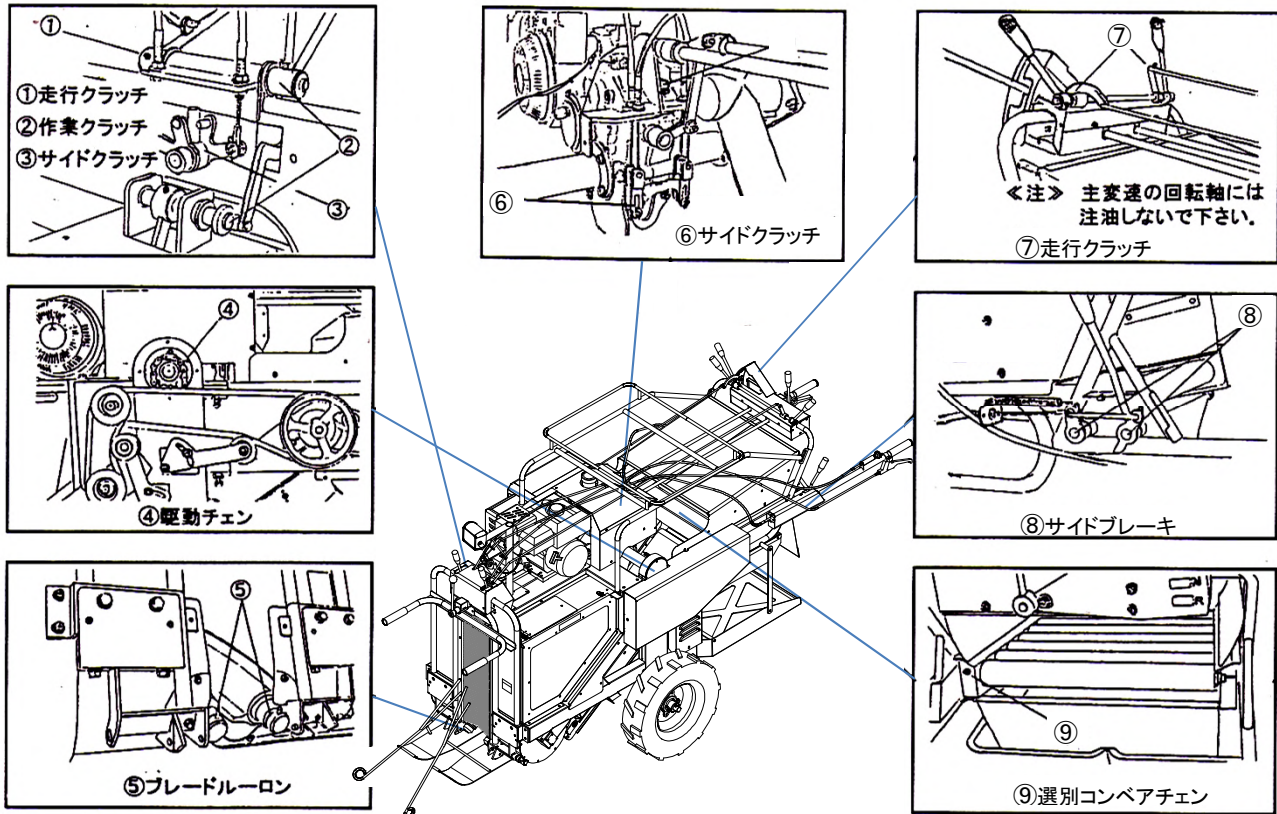
## 1 給油・注油

- 工場からの出荷のときは、各給油個所ともオイルは入っていますが、使用するまえに必ず点検をしてください。

### 《注油箇所》・・9箇所

注油箇所 1) ①②③⑥⑦⑧⑨は、食品用オイル 3 H相当品をご使用ください。

2) ④⑤は、食品用グリス H 1 相当品をご使用ください。



### ⚠ 注意

- ◆ エンジン運転中、またはエンジン停止直後の過熱しているときの燃料補給は厳禁です。
- ◆ 給油・注油するときには、必ずエンジンを停止してからおこなってください。
- ◆ 給油・注油するときには、機体を水平にしてからおこなってください。  
(機体が斜めのままですと、給油メーターが正常に動作しません。)
- ◆ 各給油個所には、必ず指定オイルを規定量給油してください。
- ◆ オイル交換時は、作業後オイルが暖かいうちにおこなうと容易にできます。
- ◆ 廃油など汚れたオイルを注油すると、故障の原因となるので、使用しないでください。

### 《給油・脂表》

No	箇所	種類	分類		容量	交換時期
			API分類	SAE粘度番号		
1	エンジンクランクケース	エンジンオイル	SD級		0.6ℓ	始業時点検, 50時間ごと (新車時25時間), 格納時
2	燃料タンク	無鉛ガソリン			3.8ℓ	始業時点検(必要量補給)
3	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-4級	90W	0.7ℓ	シーズン前点検 150時間ごと(新車時50H)



## 2 エンジンの始動と停止

### ① 始動のしかた

- ① 走行クラッチレバーを《切》にします。
- ② チェンジレバーを《中立(N)》にします。
- ③ 燃料コックを開きます。
- ④ エンジンストップスイッチを《ON》にします。(機体前後及びエンジン部)
- ⑤ スロットルレバーを高速の方に、少し開きます。
- ⑥ チョークを全閉にします。
- ⑦ スターターグリップを握り、勢い良く引張ります。
- ⑧ エンジンが始動したらスターターグリップをゆっくりと元の位置に戻します。
- ⑨ 始動後エンジンの調子をみながら、徐々にチョークレバーを《開》の位置に戻します。
- ⑩ 始動後しばらく、スロットルレバーを《低速》の位置で暖気運転します。



- ◆ 走行クラッチレバーが《入》の位置にあると、エンジン始動時に突然動き出しますので、必ず《切》で行ってください。

### ② 停止のしかた

- ① スロットルレバーを低速の位置まで戻します。
- ② エンジンストップスイッチ(機体前後及びエンジン部)を、《OFF》にします。

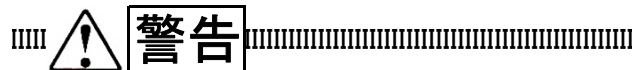


- ◆ 作業終了後エンジンを停止するときは、走行クラッチレバーを切り、主変速レバーを《(N)》にし、エンジンを低速回転で1～2分間無負荷運転を行い、エンジン温度を下げてから停止するよう心掛けてください。

- ◆ ハーベスタを格納するときは、安定した場所に置き、エンジン停止後、副変速レバーを《作業(L)》又は《走行(H)》に入れてからサイドブレーキレバーを引いて《入》にしてください。

- ◆ 坂道で駐車するときは、タイヤに木片などで《ハドメ》をしてください。

- ◆ 長期格納するときは、燃料コックを閉じてください。

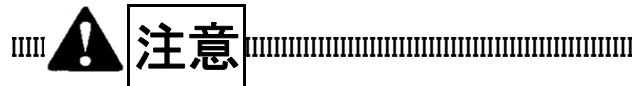


- ◆ エンジンが過熱しているときは、シートをかけてはいけません。

- ※ エンジンの詳しい説明は、別冊《三菱メキエンジン》を参照して下さい。

### ③ サイドブレーキ

- ① 駐車するときは、《サイドブレーキレバー》を引いて《入》にしてください。



- ◆ 長期格納するときは、平坦な所に保管して下さい。ブレーキライニングが固着することがありますのでサイドブレーキを掛けないでおきます。



- ◆ サイドブレーキレバーは車両への積み下ろし等 アユミ板の上での操作は絶対に行わないでください。

- ◆ 坂道など傾斜のあるところで駐車するときは、必ず《ハドメ》をしてください。

- ◆ 停車時には、《走行クラッチ》、《作業クラッチ》を切り、主変速を《中立》の位置にして下さい。再びエンジンを始動したとき急発進したり作業機が動き出したりして大変危険です。

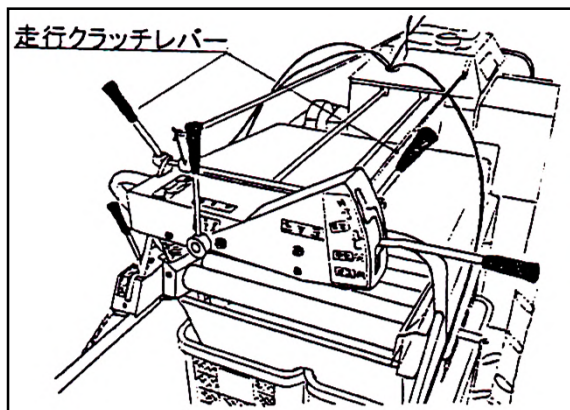
### 3 走行のしかた

- ① エンジンを始動させます。  
(7頁 エンジンの始動の欄参照)
- ② スロットルレバーを《低速》にします。
- ③ 副変速レバーを《作業(L)》又は《走行(H)》にします。
- ④ 機体前部(ソリ部)を、持ち上げます。
- ⑤ 走行クラッチレバーを《入》に入れ、主変速レバーを《前進(L)》又は《後退(R)》にゆっくり動かすと発進します。
- ⑥ 走行する条件に合わせて主変速レバーを操作し、適正な走行速度を選びます。

#### ⚠️ 注意

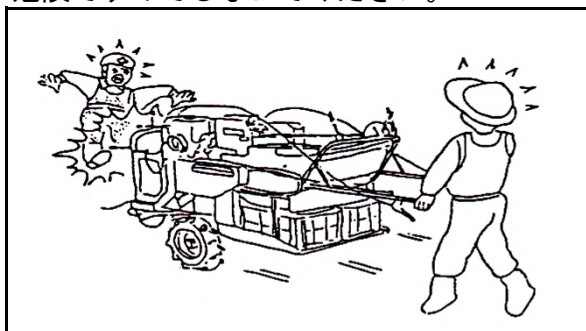
- ◆ 副変速レバーを操作するときは、必ず走行クラッチレバーを《切》にしてください。

- ◆ 副変速レバーが入りづらい場合は、走行クラッチレバーを一瞬操作してください。



#### ⚠️ 警告

- ◆ 主変速レバーが《高速》での急発進は、危険ですのでしないでください。



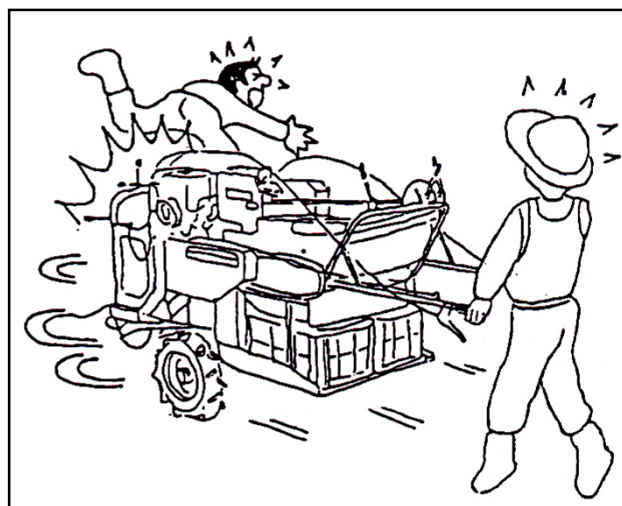
- ⑦ 方向を変えるときは、サイドクラッチレバーを握ります。(旋回したい方向のレバーを握ります。)

#### ⚠️ 注意

- ◆ 発進・旋回するときは、まわりに人がいないか良く確かめてから行ってください。

#### ⚠️ 警告

- ◆ 高速で走行する際には、サイドクラッチレバーを強く握ると《急旋回》し、非常に危険ですので《安全な速度》で操作してください。



## 4 トラックへの積込み・積降ろし

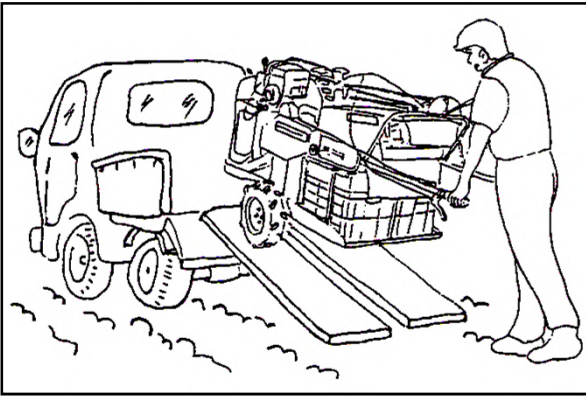
- ・トラックへの積込み・積降ろしは、まわりに危険物のない平坦な場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して、次のことに注意し慎重に行ってください。

### ① ハーベスターの扱い方

- ① エンジンは**《最高回転》**にします。
- ② 積込みは、副変速レバーを**《作業(L)》**の位置で行います。
- ③ 降す時も、副変速レバーを**《作業(L)》**の位置で行います。

### !!!! **注意** !!!!!

- ◆ トラックへの積込み・積降ろし中は、ハンドルが**非常に低い位置**までさがりますので、注意してください。



- ◆ 機体前部の**《ソリ》**が**《アユミ板》**や**《トラックの荷台》**にひっかからないように注意してください。

### !!!! **警告** !!!!!

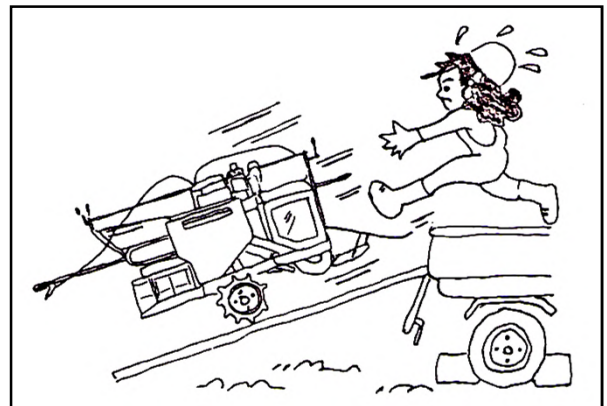
- ◆ トラックへの積込み・積降ろし中に、**《アユミ板》**の上で**《走行クラッチ・サイドクラッチ及びチェンジレバー》**の操作は絶対にしないでください。

### ② トラック・アユミ板について

- ① トラックの変速（チェンジレバー）は、**《バック》**に入れて**《サイドブレーキ》**をかけます。
- ② タイヤには**《ハドメ》**をします。
- ③ アユミ板は、ハーベスタの荷重に十分耐えられる強度のもので、**《トラックの荷台高さ》**の3倍以上の長さがあり、**《滑り止め》**をしたものを使用します。
- ④ **《アユミ板》**は、トラックの荷台に掛けたとき**《段差》**のないようにし、**《横ズレ》**したり**《ハズレ》**ないよう確実に掛けます。
- ⑤ トラックに積込みが終わったら、ハーベスタのタイヤに**《ハドメ》**をし、サイドブレーキレバーを入れて、必ずロープを掛けて確実に固定します。

### !!!! **注意** !!!!!

- ◆ **《アユミ板》**は、タイヤの幅より広いものを使用し、左右の**《タイヤ》**がアユミ板の中央に位置するようにセットしてください。



# ◇上手な作業のしかた◇

## 1 作業前の準備

### ① 作物と圃場条件

#### ① ハーベスターに適した作物条件

- ・枝豆の草丈が短すぎず、又あまり長すぎもしない程度のもので、分枝が少なく着莢位置が高く、茎はやや細目のものが適しています。

《ハーベスターに適する枝豆の草姿のめやす》

項目	目標値
着莢位置	10~50 cm
分枝数	3~5本
主茎長	25~50 cm
茎径	8~12 mm

※極早生・早生系統は、草丈が短く、播種時期により着莢位置が10 cm前後に集中するので適さない。

#### ② 圃場条件

- ・有機質に富む膨軟な土壌で、砕土がよく、排水性のよい圃場が適しています。
- ・水田転作にあっては、排水の悪い重粘土の圃場は避けて下さい。
- ・前作に大豆などの畑作物を2作程度栽培した後の圃場がよく、良質な堆肥を充分施用して下さい。

#### ③ 栽植様式

- ・畦幅 80~90 cm
- ・1条植え（播き）
- ・1条植え（播き）1株1~2本植とする。

#### ④ 栽植方法

- ・育苗→移植および直播、いずれの方法でもよろしいですが、直播の場合は、地温が概ね15℃程度になってから行なう方が発芽・苗立が安定します。
- ・移植の場合は、初生葉の展開が3/4ないし完全展開時の頃に定植すると良いでしょう。

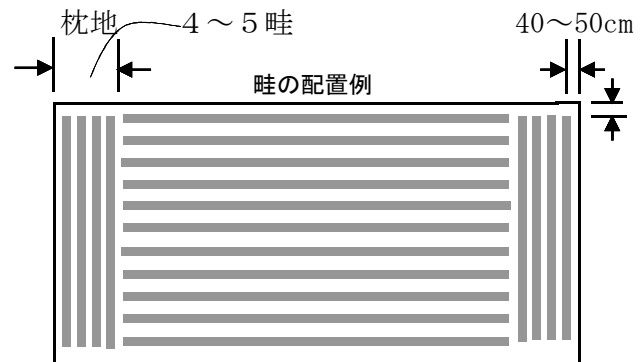
#### ⑤ 施肥量

- ・枝豆の生育をやや抑え、分枝が少ない方が脱莢精度が高くなりますから、基肥は慣行よりやや控えめにし、生育を見ながら追肥で対応して下さい。

### ② 圃場の準備

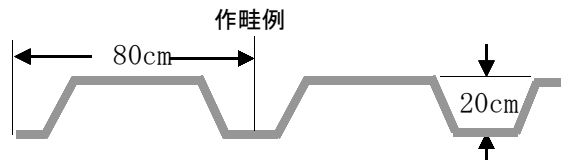
#### ① 畦の配置

- ・ハーベスターの旋回する部分を確保するため、枕地を3~4 m（4~5畦）程度とった方がよい。また、最初の畦の中心は、畔際から40~50 cmの位置となるようにする。



#### ② 作畦

- ・畦の高さは20 cm位が最適です。培土する場合は、1~2回程度とし、過度にならない様にしてください。



#### ③ 耕うん・畦立・整地・マルチ掛け

- ・耕うんは、施肥後圃場がよく乾燥している時に行い、可能な限り砕土をしてください。
- ・畦立後は、直ちに床面の整地・均平を行い、床面の凹凸が無い様にしてください。
- ・早生種では畦の高さは20 cmまでにとどめ、培土を行なう中晩生種では、最初の畦立はあまり高くしないでください。

## 2 運転操作

### ④ 倒伏した場合の処置

- ・早い時期の倒伏は、放置すると主茎や分枝の立ち上がりにより、(クランク状になる。)スムーズな脱莢ができなくなる。また、倒伏したままの状態では収穫は無理があるので、倒伏したら直ちに株を引き起こしハーベスターがスムーズに走行出来るようにしておいてください。

### ③ もぎとり作業の手順

#### ① 枕地の確保

- ・まず、ハーベスターの入る枕地の枝豆を抜いてください。

#### ② もぎ取り作業の位置あわせ

- ・ハーベスターの車輪を畦の谷に入れ、畦をまたぎ、《ソリ》(左右)の中心に、枝豆の株が位置するようにセットします。

#### ③ 作業者の位置

- ・作業は、機体前部の右(左)に立ち、前部のハンドルを片手で握ります。機械を前進させながら《前部サイドクラッチレバー》を操作し、機械を直進させます。
- ・倒伏していたり、乱れている枝豆を起こし、扱室に誘導してください。

#### ④ 「えだまめ」の収穫

- ・もぎ取られた「えだまめ」は、機体後部の《コンテナ》に収納されます。一杯になったら、予備のコンテナに取り替えて下さい。
- ・予備のコンテナを、前後の畔に用意しておくとう便利です。

#### ⑤ 収穫したえだまめの処置

- ・収穫後は、品温が上がらない様に保管し、早めに選別・調整・袋詰めを行なってください。

#### ⑥ 収穫後の作物残さ等の処理

- ・立毛の状態、枝豆の茎葉が圃場にそのまま残るので、トラクターなどで耕うん鋤き込みしてください。

- ① エンジンを始動させ、スロットルを全開にします。

(7頁《エンジンの始動》欄参照)

- ② サイドブレーキを《切》にして外します。
- ③ 副変速レバーを《L》か《H》にします。
- ④ 走行クラッチレバーを《入》に入れます。
- ⑤ 主変速レバーをゆっくりと《前進L》か後進の場合は《後進R》に入れます。
- ⑥ スロットルレバーを調整し、適切な速度で作業します。
- ⑦ 停止する場合は、走行クラッチレバーを《切》に入れ、エンジンスロットルを最低にします。



**注意**

- ◆ エンジンスロットルを操作するときは、エンジン(マフラー)が熱くなっていますので、やけどに充分注意してください。

## 3 作業・走行速度

- ・下記の一覧表に示した速度で操作してください。

作業内容	主変速	副変速
トラックへの積込み	L(前進)	L(作業)
あぜ越え	L(前進)	L(作業)
標準作業	L~H(前進)	L(作業)
高速作業	H(前進)	L(作業)
路上走行	L~H(前進)	L~H
トラックから降ろす	R(後退)	L(作業)
作業時後進	R(後退)	L(作業)
路上走行時後進	R(後退)	L~H

## 4 脱莢ブレードの間隔

- ・脱莢ブレードの間隔は、左側のブレードを寄せたり、放したりして調整できます。もぎ取り状態をみながら調節してください。

- ・調整できる間隔

ブレード先端(茎元側)	ブレード後端(葉先側)
5 ~ 15 mm	6 ~ 7 mm

- ・機体左前底部の《ブレード間隔調節ボルト》を

《右》に廻す → ブレード間隔 《広く》

《左》に廻す → ブレード間隔 《狭く》

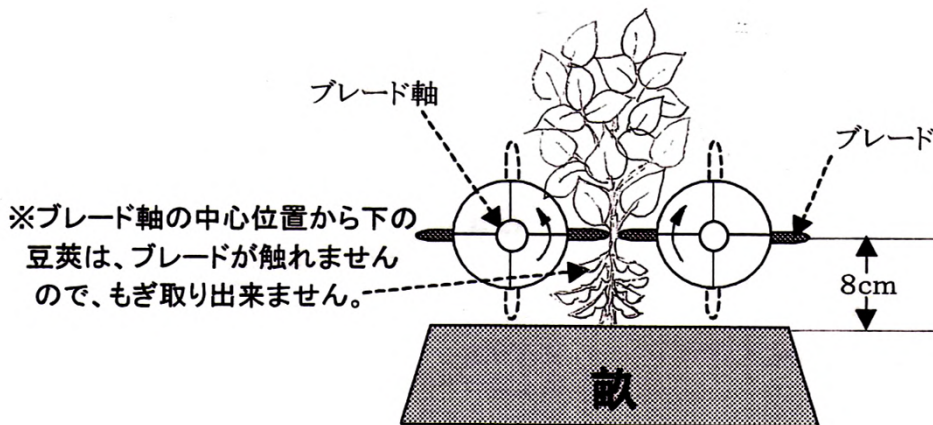
なります。

# ◇不調の場合の処置◇

- ・不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をし、症状を大きくしない様にしてください。
- ・原因がわからない時は《お買い上げ先》に御相談のうえ処置してください。

◆もぎ残りが出る。(全体的に…)		
原因	処置	参照ページ
1. 脱莢ブレードの間隔が広すぎる。	・ブレードの間隔をせばめる。	11頁4・18頁③
2. 枝豆の茎が太かったり、分枝が多かったりして莢が影に隠れ、ブレードに触れない。	・機械化対応の品種にする。	10頁1の①

◆下部の莢がもぎ残る。		
原因	処置	参照ページ
1. 着莢位置が低すぎる。(早生種に多い、地上から8cm以下は構造上採れない。)	・機械化対応の品種にする。 (早生品種は不向き)	10頁1の①



◆莢が傷む。		
原因	処置	参照ページ
1. ブレード間隔が狭すぎる。	・ブレードの間隔を広げる。	11頁4・18頁③
2. 着莢位置が下部にかたまっている。 (早生品種に多い。)	・機械化対応の品種にする。 (早生品種は不向き)	10頁1の①

◆枝折れが多い。・葉、屑の発生が多い。		
原因	処置	参照ページ
1. 分枝が多く、張っている。	・機械化対応の品種にする。	10頁1の①
2. 繁茂し過ぎている。		
3. 作業速度が速すぎ、ブレードが処理できない枝・葉をソギ取ってしまう。	・速度を若干落として作業する。	11頁3

◆選別が悪い。		
原因	処置	参照ページ
1. 分枝が多く、張っている。	・ 機械化対応の品種にする。	10頁1の①
2. 繁茂し過ぎている。		
3. 作業速度が速すぎる場合、枝・葉の発生量が多くなり、選別能力を超える。	・ 作業速度を落とす。	11頁3
4. 畝が低い場合、機体の前傾角度が強くなり葉屑が選別ローラーを登れず混入する。	・ 畦の高さを20cm位にする。	10頁1の②

◆土塊を掻き揚げる。		
原因	処置	参照ページ
1. 畦が平坦でなく、枝豆の根元に土が盛り上がっている。	・ 培土をやり過ぎない、根元に土を寄せない。	10頁1の②
	・ 着莢位置の高い品種にする。	10頁1の①
2. 畦の土塊が大きい。	・ 耕うん畦立て時、碎土を良くする。	10頁1の②

# ◇手入れのしかた◇

- ・作業後は、各部に付着した泥・くずなどをていねいに除去し、部品やベルト等の摩耗や伸びがないか点検・再整備をおこなってください。



◆ 清掃・点検・調整・整備は、必ずエンジンを停止してからおこなってください。

## 1 定期点検整備表

- ・正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように《定期点検整備表》を参考に点検・整備をしてください。
- ・シーズン前に必ず各部を点検してください。
- ・実施項目の表示
- ・表示記号の説明
  - ……指定時間に達したときに点検し、調整・補給などの処置をします。
  - ……指定時間に達したときに交換します。
  - ◎ ……指定時間ごとに点検し、調整・補給などの処置をします。

点検・整備項目	整備内容	整備時間					参照ページ	
		シーズン前	25時間目	50時間目	100時間目	200時間目		
エンジン部	エンジンオイル	油量点検・補給オイル交換	○	● 初回のみ	● 50時間毎			15, 25
	エアクリーナー	ゴミ付着点検・清掃・交換	○					15
	点火プラグ	カーボン除去・スキマ調整			○ 50時間毎			15
	ストレーナカップ	ゴミ付着点検・清掃・交換			○ 50時間毎			15
走行部	トランスミッションオイル	油量点検・補給オイル交換	○		● 初回のみ		● 150時間毎	6, 15, 25
	HST無段変速装置	油量点検・補給オイル交換	○		◎ 50時間毎		● 300時間毎	25
	サイドクラッチレバー	遊び量・点検・調整	○	○		◎ 100時間毎		6, 16
	走行クラッチレバー	点検・調整・注油	○	○	◎ 50時間毎			6
	走行クラッチベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			18
	主変速レバー	位置ズレ点検・調整	○	○		◎ 100時間毎		17
	サイドブレーキレバー	点検・調整	○			◎ 100時間毎		6, 16
	タイヤ	空気圧点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			15
脱糞機部	ブレードギアボックス	異音点検	○					-
	作業クラッチレバー	点検・調整・注油	○	○	◎ 50時間毎			6
	作業クラッチベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			18
	脱糞ブレード	摩耗・ヒビ・亀裂・位相合せ	○	◎ 25時間毎				18, 19, 23
	ブレード軸受ルーロン	変形・摩耗・点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			6, 18
その他駆動・回転部	コンベア搬送ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			19
	コンベア駆動ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			17
	テールローラー	点検	○	○	◎ 50時間毎			15
	カウンターベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			17
	プロアベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			17
	選別ローラーベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			17
	豆上げベルト	ベルトの伸び点検・調整	○	○	◎ 50時間毎			17
	選別ローラーチェン	注油	○	○	◎ 50時間毎			6
	駆動チェン	チェンの伸び点検・注油	○		◎			6



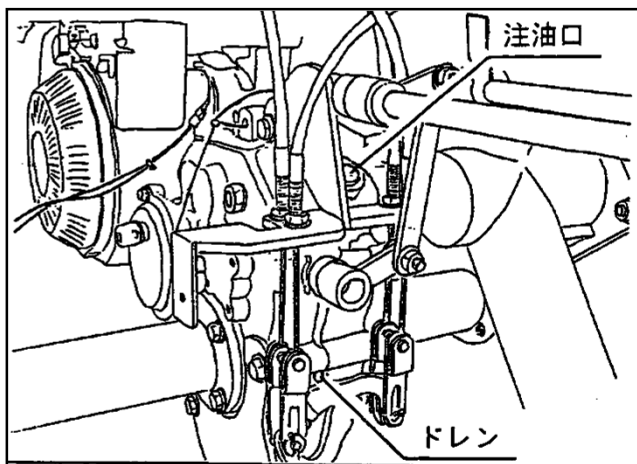
## 2 作業後の点検と清掃

### ① エンジンの点検

- ・ 別冊《三菱メイキエンジン》の説明書参照。

### ② トランスミッションの点検

- ・ オイルもれなどないか点検してください。



### ③ タイヤの点検

- ・ タイヤの空気圧を点検し、 $2.2 \sim 2.4 \text{ kg/cm}^2$ を保つようにしてください。

### ④ コンベア部の清掃

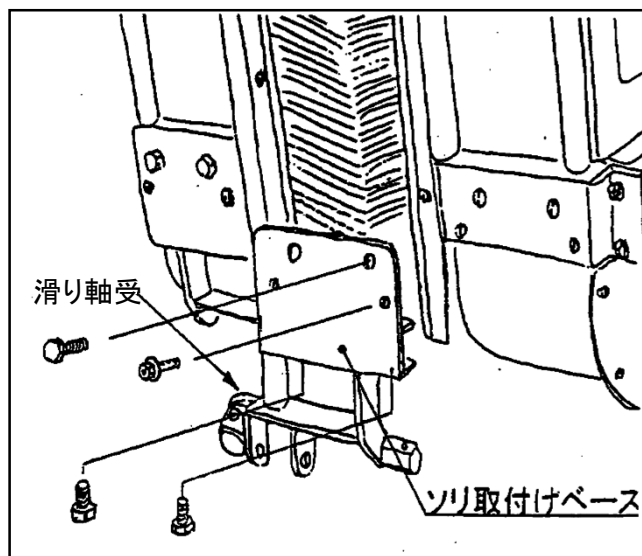
- ・ 左右の《コンベアベルト》裏側の《ローラー》や《スクレーパー》に葉屑が巻き付いたりしていると、コンベアの動きを阻害し重大な故障の原因になりますから、良く点検し、葉屑を完全に除去してください。
- ・ 《テールローラー内部》に《ベアリング》が入っていますから、時々点検し動きが悪くなっていたら交換してください。

### ⑤ 脱莢部・扱室内の清掃

- ・ ブレードに枝や草が巻付いたり、からまっていないか点検し、取り除いてください。(特に入口側の軸にからまっていないか、良く確かめてください。)
- ・ 扱室内の葉やくずを取り除いてください。
- ・ 豆上げ部に枝や草が巻付いたり、からまっていないか点検し、取り除いてください。
- ・ ブレード軸受部(茎元側)の《滑り軸受》が、摩耗・変形していたら交換してください。

#### 《交換方法》

- 《ソリ取付けベース》を外し
- 《滑り軸受》を交換してください。



### !!!!!! ⚠️ 注意 !!!!!!!

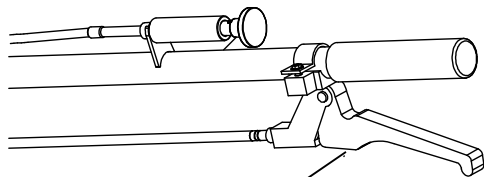
- ◆ 《ブレード軸受部》(茎元部)には、《滑り軸受》樹脂材を使用しています。この部品は、消耗品ですので、摩耗したら交換してください。

### 3 調整のしかた

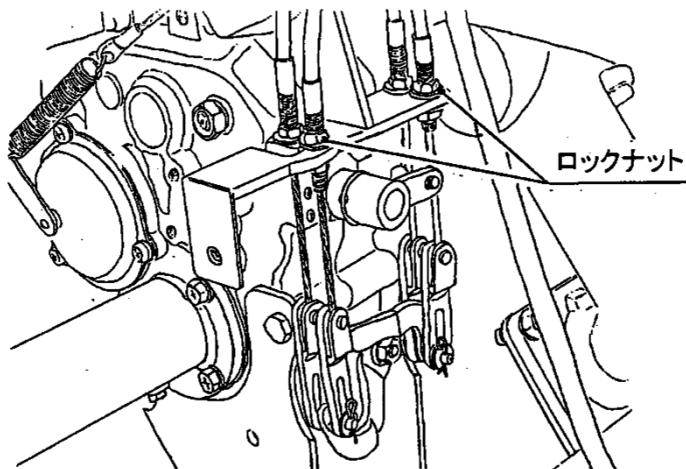
#### ① レバーの点検・調整

##### 後部サイドクラッチレバー

点検	レバーの遊びが《5mm》以内になっていますか。
調整	ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめ、アジャスタで張ります。

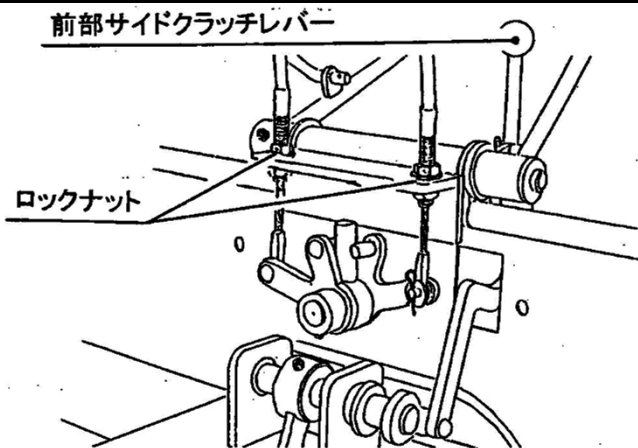


後部サイドクラッチレバー



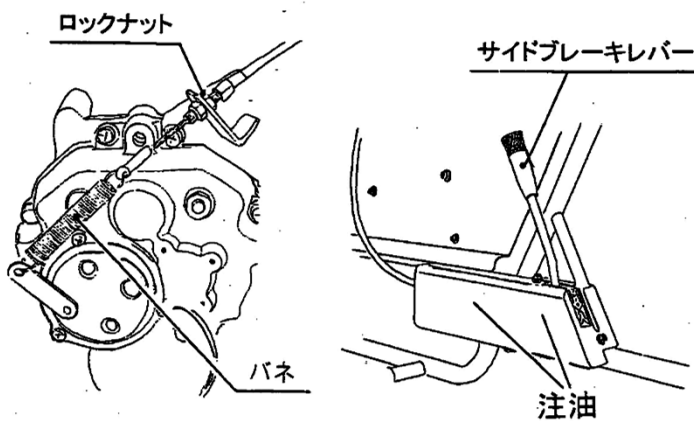
##### 前部サイドクラッチレバー

点検	レバーの遊びが《20mm》以内になっていますか。
調整	ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめ、アジャスタで張ります。



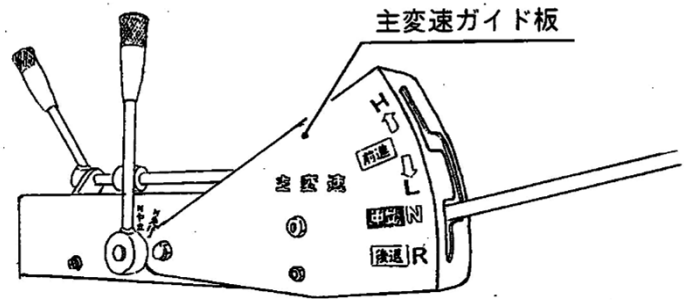
##### サイドブレーキレバー

点検	レバーを引いたとき確実にブレーキが効きますか。
調整	ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめ、アジャスタで張ります。解除時には、バネが効いていないことを確認してください。
注油	ときどきレバー回転軸に注油をしてください。



## 主変速レバー

点検	中立《N》の位置で確実に機械が停止しますか。
調整	主変速ガイド板のネジをゆるめ、調整します。



## ② ベルトの点検・調整

### コンベア駆動ベルト

点検	ベルトを2~3kgで押さえ、ベルトの《タワミ量》が10~15mmになっていますか。
調整	テンションローラーアーム①固定ボルトをゆるめ、アームを回転させて調整します。

### 豆上げベルト

点検	ベルトを2~3kgで押さえ、ベルトの《タワミ量》が5~10mmになっていますか。
調整	テンションローラーアーム②固定ボルトをゆるめ、アームを回転させて調整します。

### 選別ローラーベルト

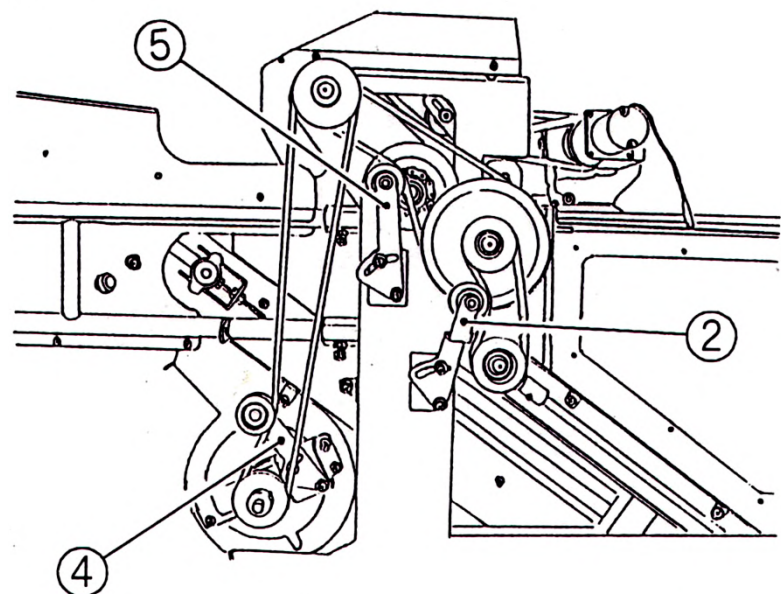
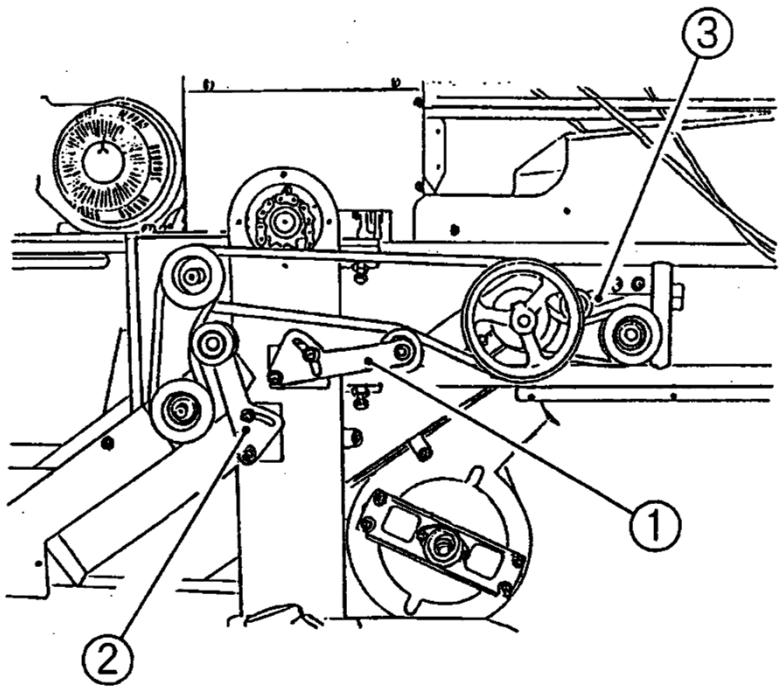
点検	ベルトを2~3kgで押さえ、ベルトの《タワミ量》が5~10mmになっていますか。
調整	テンションローラーアーム③固定ボルトをゆるめ、アームを回転させて調整します。

### ブローベルト

点検	ベルトを2~3kgで押さえ、ベルトの《タワミ量》が15~25mmになっていますか。
調整	テンションローラーアーム④固定ボルトをゆるめ、アームを回転させて調整します。

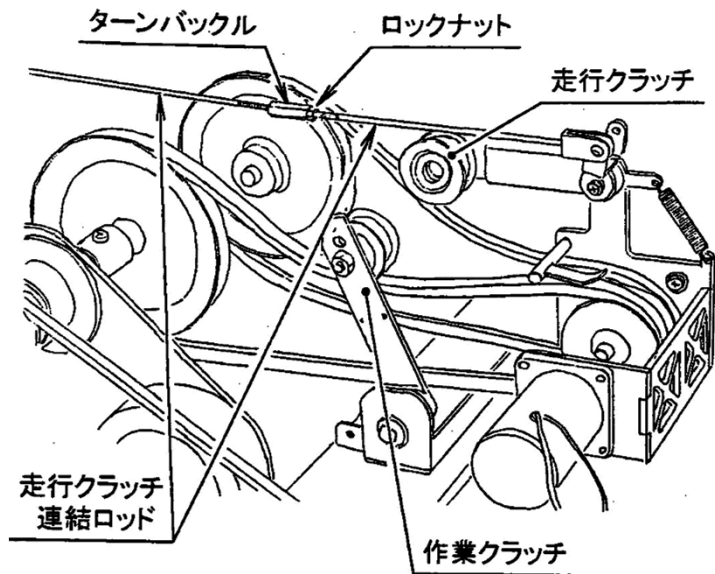
### カウンターベルト

点検	ベルトを2~3kgで押さえ、ベルトの《タワミ量》が10~15mmになっていますか。
調整	テンションローラーアーム⑤固定ボルトをゆるめ、アームを回転させて調整します。



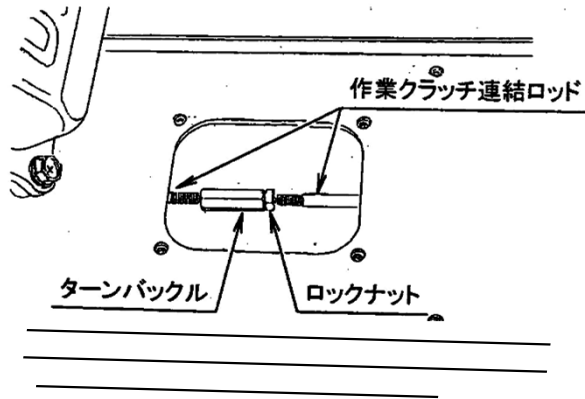
## 走行クラッチベルト

点検	走行クラッチレバーが《入》のとき、ベルトをかるく持ち上げたときのベルトの《タワミ量》が10～15mmになっていますか。
調整	連結ロッドのターンバックルのロックナットをゆるめ、調整します。 (走行クラッチレバーを切ったとき、走行部が確実に停止することを確認します)



## 作業クラッチベルト

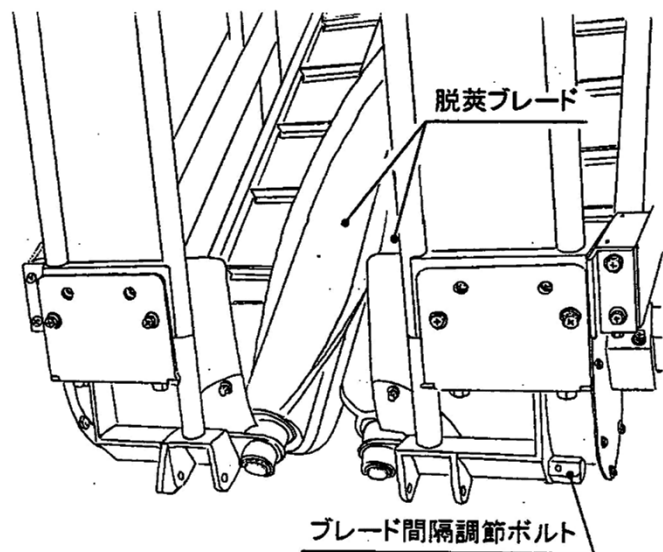
点検	作業クラッチレバーが《入》のとき、ベルトをかるく持ち上げたときのベルトの《タワミ量》が10～15mmになっていますか。
調整	ライトベースを外します。連結ロッドのターンバックルのロックナットをゆるめ、調整します。 (作業クラッチレバーを切ったとき、作業部が確実に停止することを確認します)



## ③ 脱莢部・コンベアの点検・調整

### 脱莢ブレード

点検	① ブレードの間隔が、枝豆の状態に適していますか。 ② ブレードに傷み、摩耗はありませんか。
調整	① もぎ残りがある場合や、薄い豆莢の場合、《ブレード間隔調節ボルト》を《左》にまわし、ブレードの間隔を《狭く》します。 枝折れが多い場合や、太った豆莢の場合、調節ボルトを《右》にまわし、ブレードの間隔を《広く》します。 ② 傷んでいたり摩耗していたら、交換してください。



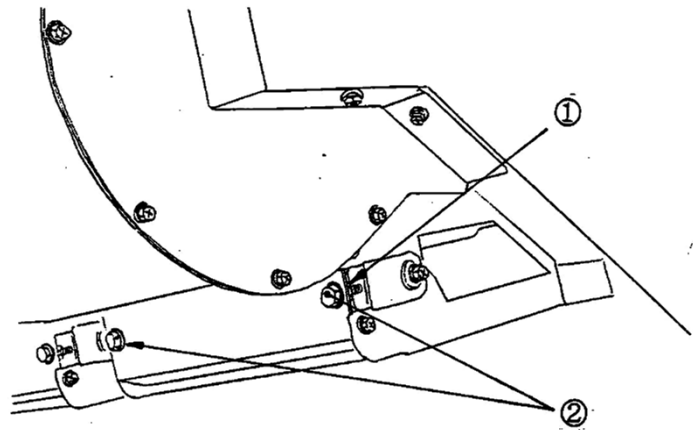
## コンベア

点検

搬送ベルトがのびて、スリップする程ゆるんでいませんか。

調整

《①》の《ロックナット》をゆるめ、《②》のボルトでベルトを張ります。決して張り過ぎないでください。故障の原因になります。



### ④ ブレード交換の仕方

- ① ソリ取付けベース《a》を外す。
- ② ブレードカバー《c》を外す。
- ③ カップリングフランジ《d》のボルトを緩める。
- ④ ブレード《e》を引き抜き、交換する。

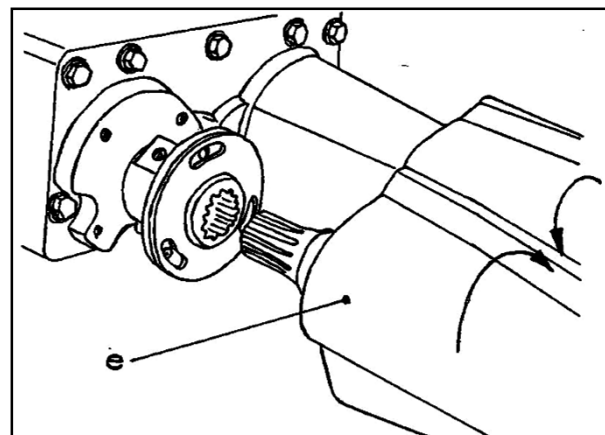
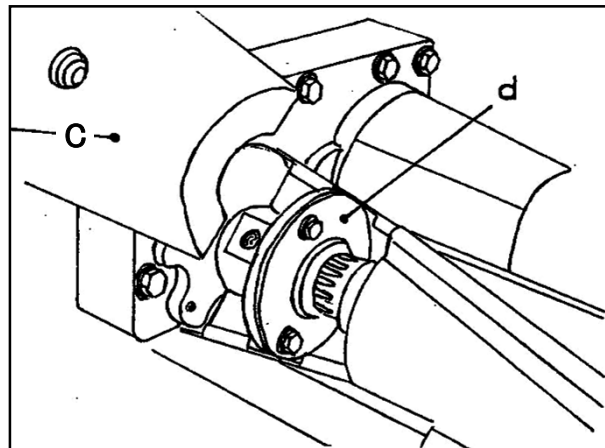
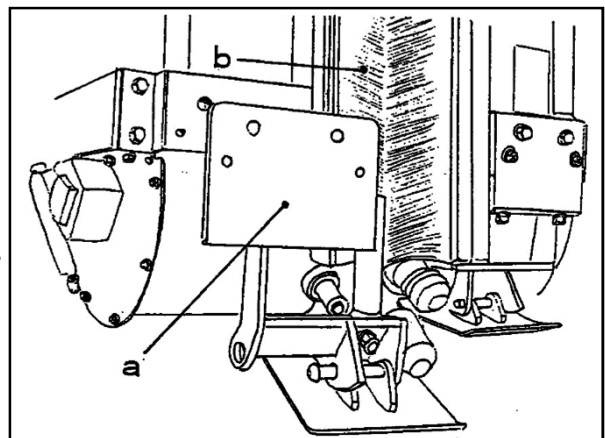
(抜けにくい場合にはカップリングフランジごと外して下さい。)

(入口ブラシ《b》が邪魔な場合は外して下さい。)

- ⑤ 取付け時、ブレードの羽根の位置 (位相) が大体合う位置にスプライン軸を入れる。位相合せをし、3カ所のボルトを締める。

(ギヤのバックラッシュがある為、ブレードに矢印方向の負荷をかけた時に位相が合う様にする。)

- ⑦ カバーを元通りに組み付け完了。



# ◇格納時の手入れ◇

・ シーズンが終わったら、つぎのことに注意をし格納してください。

## 1 機体の清掃と水洗い

- ① 1分間程脱莢機を空運転し、脱莢機内のくずや、葉を排出して清掃してください。
- ② 各部の雑草の巻きつきを取り除いてください。
- ③ 機体の泥などを水洗いするときは、強い水圧(2kg/cm<sup>2</sup>以上)をかけないでください。
- ④ 水抜き穴がありますので、点検・清掃して確認してください。

### !!!! **注意** !!!!!

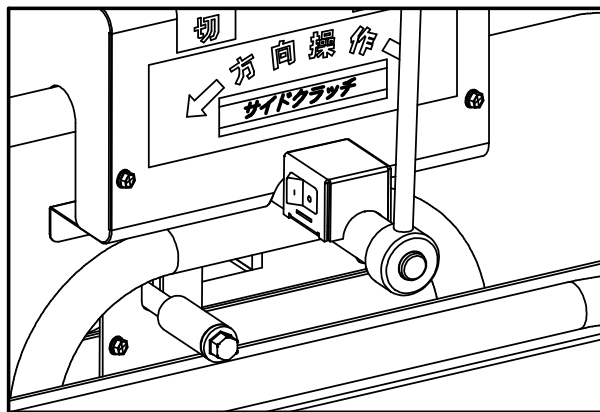
- ◆ 回転部・コンベアなどに付着したゴミ・雑草・屑などの除去の際には、必ずエンジンを停止してください。
- ◆ エンジンは、水洗いしないでください。

## 2 注油・サビ止め

- ① 各回転部・摩擦しゅう動部などには十分に注油して、サビないように注意してください。
- ② チェーン・ワイヤーなど注油箇所に注油してください。
- ③ 車輪軸などのサビやすい箇所にも注油してください。

## 3 エンジンの手入れ

- ① 暖気運転をしてから、エンジンオイルを交換します。オイル交換後は、アイドリング回転で5分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。



- ② スロットルレバーは必ずいっぱいに戻しておきます。
- ③ 燃料タンクの燃料を抜き取ります。
- ④ 燃料コックを閉じます。

## 4 格納

- ・ 機体の清掃・点検・整備を終えたら、風通しの良い乾燥した屋内を選、シートをかけて保管します。

### !!!! **注意** !!!!!

- ◆ ベルトが変形・固着することがありますので、走行クラッチレバーは「切」にしておいてください。
- ◆ 長期格納時はブレーキライニングが固着することがあるので、サイドブレーキをかけないでください。
- ◆ エンジンが過熱しているときは、シートをかけてはいけません。
- ◆ サビの発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料と同じ場所に格納するのは、さけてください。

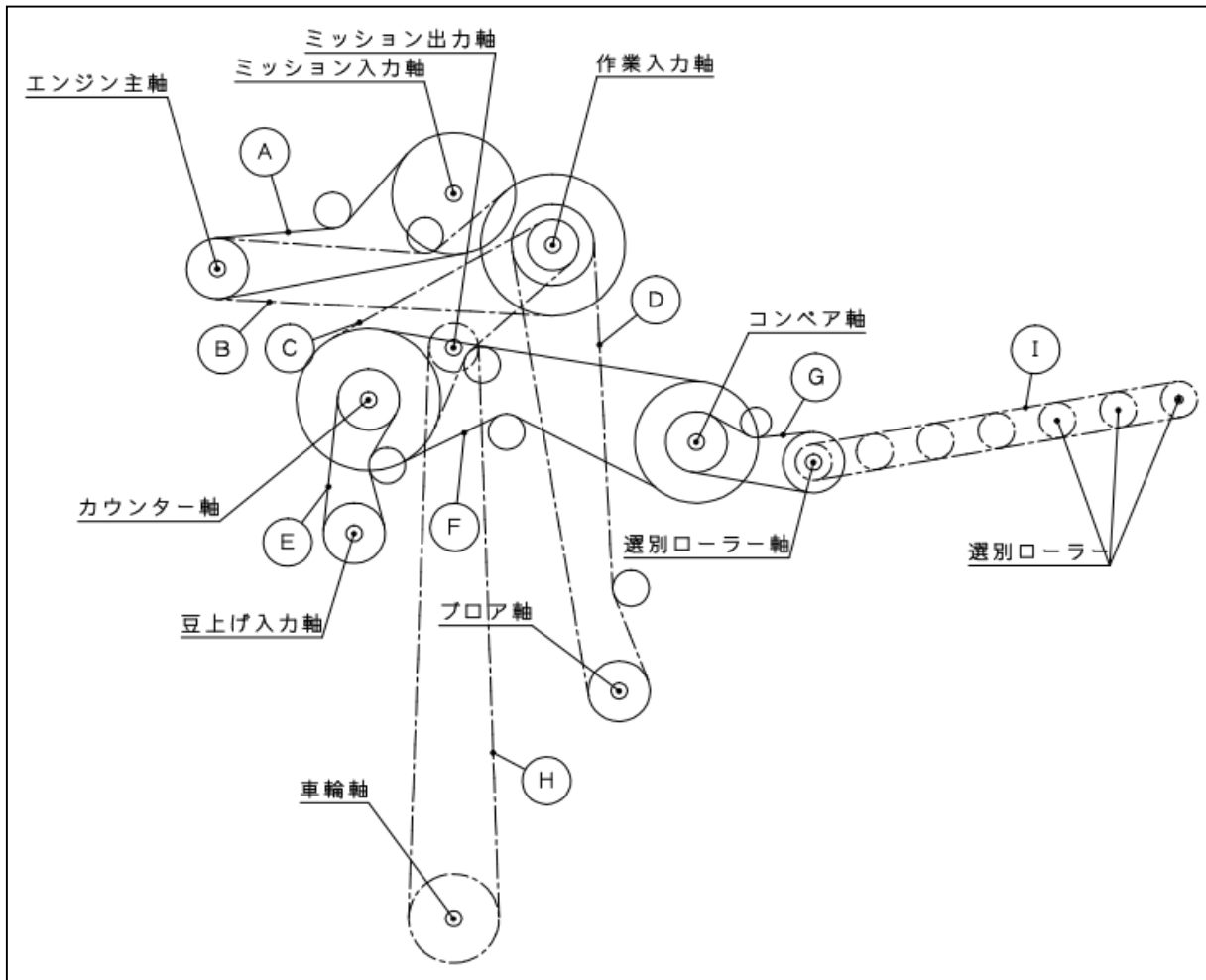
# ◇付表◇

## 1 主要諸元

型 式		G H - 4
機 体 の 大 き さ	全 長 (mm)	2, 9 0 0
	全 幅 (mm)	1, 0 0 0
	全 高 (mm)	1, 6 5 0
重 量 (kg)		3 0 0
能 率 (a/h)		3 ~ 5 (1 ~ 2人)
エ ン ジ ン	型 式	三菱GB181P
	定 格 出 力 (PS/rpm)	6.0 / 4, 0 0 0
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	3.6
	使 用 燃 料	無鉛ガソリン
	始 動 方 式	リコイルスターター方式
脱 莢 部	脱莢ブレード径×長さ (mm)	1 2 5 × 7 5 0
	脱莢ブレード回転数 (rpm)	6 5 0
	選 別 方 式	ブロー風選方式
	脱 粒 方 式	斜設スパイラルブレードによる立毛脱莢方式
収 莢 方 式		コンテナ収納方式
走 行 部	タイヤ (径×幅) (mm)	5 0 0 × 1 2 0
	タ イ ヤ 芯 間 (mm)	8 5 0 ~ 8 9 0
	変 速 段 数	H S T 前後進無段変速 (副変速2段)
適 応 品 種	主 茎 長 (cm)	2 5 ~ 5 0
	着 莢 位 置 (cm)	1 0 ~ 5 0
	分 枝 数 (本)	3 ~ 5 (極早生品種は不可)
適 応 圃 場 条 件	畝 幅 (cm)	8 0 ~ 9 0 (1畝1条植え)
	勾 配	3 / 1 0 0 以下
	倒 伏 角 度 (度)	3 0 以下

## 2 ベルト・チェーン一覧表

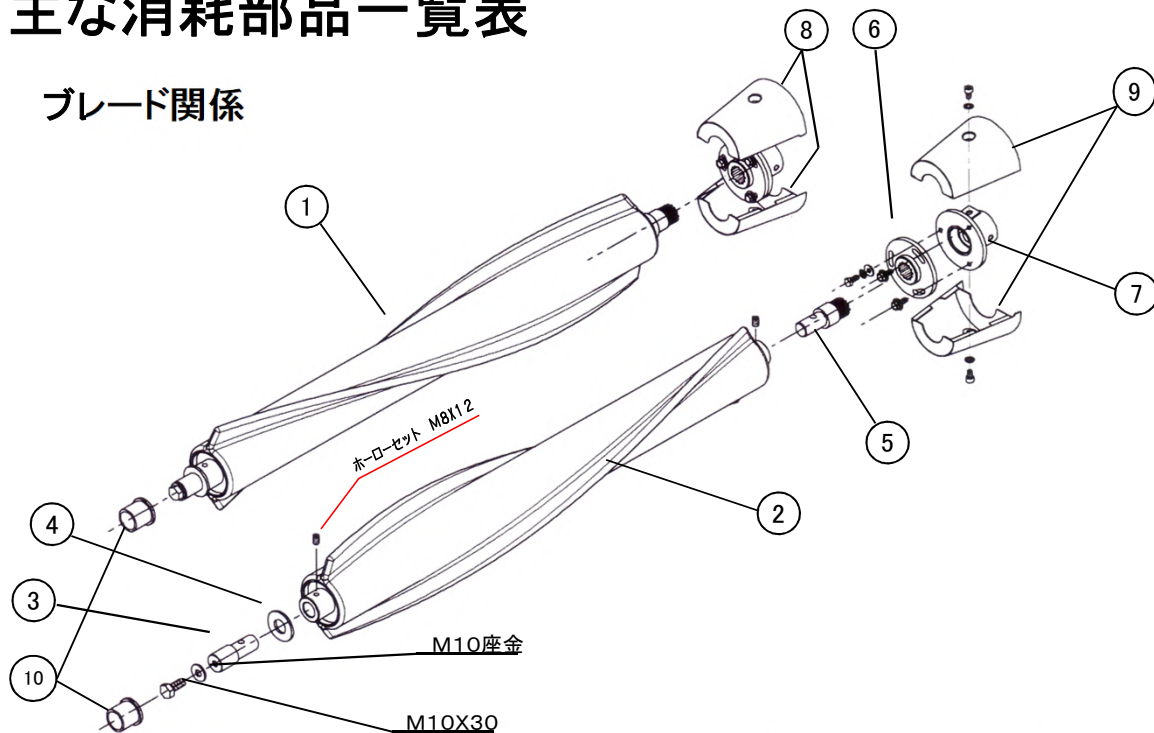
記号	伝動系統	本数	ベルト、チェーンサイズ	備考
A	エンジン主軸－ミッション入力軸	1	SA-40 走行クラッチベルト	
B	エンジン主軸－作業入力軸	1	SB-50 作業クラッチベルト	
C	作業入力軸－カウンター軸	1	SA-39 カウンターベルト	
D	作業入力軸－プロア軸	1	SA-55 プロアベルト	
E	カウンター軸－豆上げ入力軸	2	SA-22 豆上げベルト	
F	カウンター軸－コンベア軸	1	SA-47 コンベア駆動ベルト	
G	コンベア軸－選別ローラー軸	1	RM-20 選別ローラーベルト	
H	ミッション出力軸－車輪軸	2	#50-107リンク 走行チェーン	
I	選別ローラー軸－選別ローラー	1	#40-83リンク 選別ローラーチェーン	





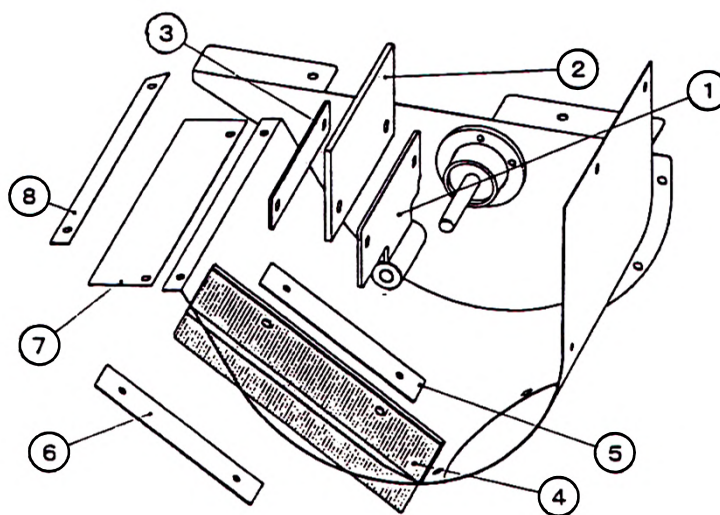
### 3 主な消耗部品一覧表

#### 1 ブレード関係



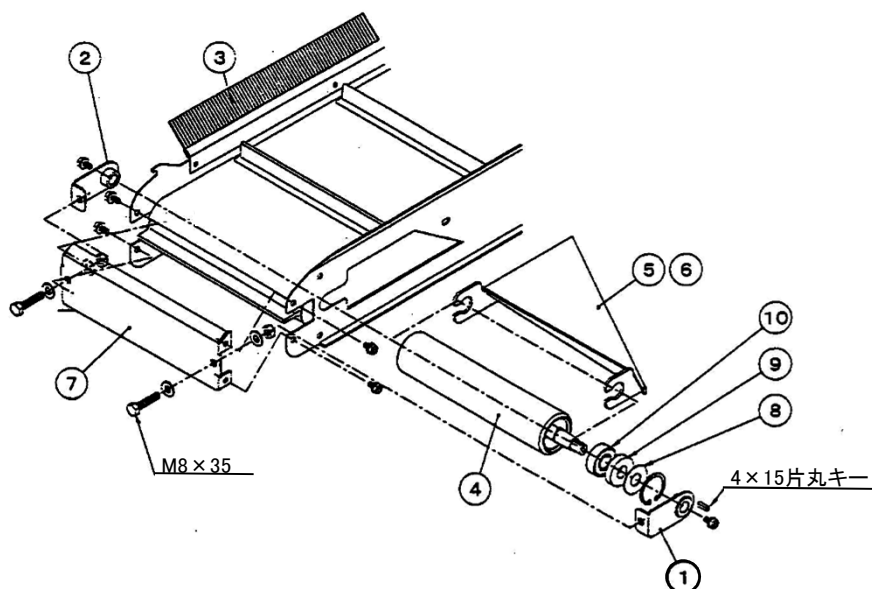
No	部 品 名 称	数 量	備 考
1	スパイラルブレード (右)	1	
2	スパイラルブレード (左)	1	
3	ブレードシャフト前	2	
4	座金	2	ブレード軸受カバー
5	ブレードシャフト後	2	
6	カップリング	2	
7	ロックジョイント	2	
8	ブレードカバー (右)	2	
9	ブレードカバー (左)	2	
10	滑り軸受	2	R-ARF2530

#### 2 豆上げ装置



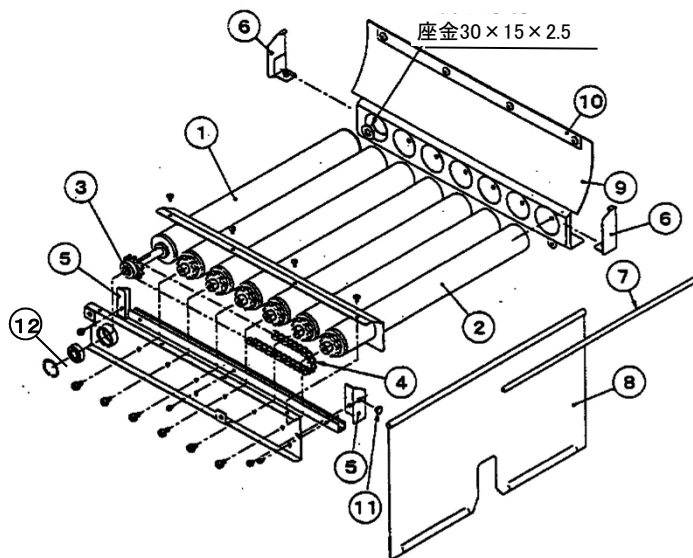
No	部 品 名 称	数 量	備 考
1	豆上げ板	2	
2	豆上げゴム	2	
3	豆上げゴム押え板	2	
4	豆上げブラシ	2	
5	豆上げブラシ止め板	2	
6	二連ナット	2	
7	落下防止布	2	
8	落下防止布押え板	2	

### 3 コンベア関係



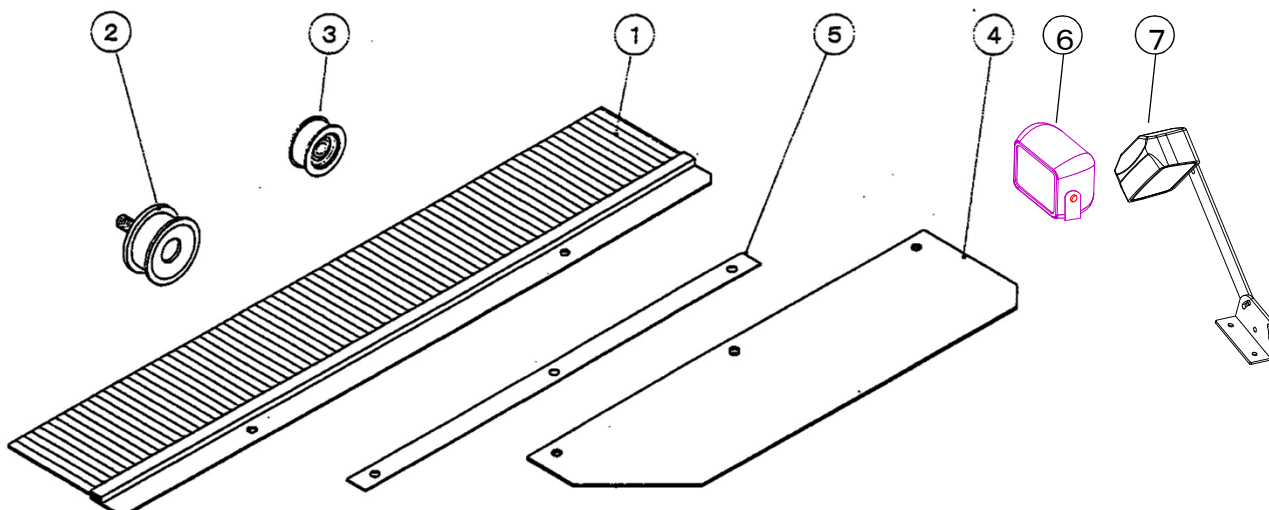
No.	部 品 名 称	数 量	備 考
1	テールローラー軸受け(外)	1	
2	テールローラー軸受け(内)	1	
3	コンベアブラシ	2	
4	テールローラー	2	
5	テールスクレイパー (左)	1	
6	テールスクレイパー (右)	1	
7	コンベア補強	1	
8	座金	4	351508
9	オイルシール	4	TC15358
10	ベアリング	4	6202LLU

### 4 選別ローラー関係



No.	部 品 名 称	数 量	備 考
1	選別駆動ローラー	1	
2	選別従動ローラー	6	
3	選別駆動スプロケット	1	
4	選別ローラーチェーン	1	#40-83リンク
5	選別コンベアチェーンカバー (前後)	各1	
6	選別コンベアカバー (前後)	各1	
7	防塵シート軸	1	
8	防塵シート	1	
9	選別ゴムカバー	2	
10	選別ゴムカバー押え	2	
11	エアーゴム栓	1	
12	ベアリング	2	6202LLU

## 5 その他



No	部 品 名 称	数 量	備 考
1	入口ブラシ	1	
2	テンションローラー	7	H-45
3	選別テンションローラー	1	VFF-3815
4	コンテナ飛散防止ゴム	2	
5	コンテナ飛散防止ゴム押え	2	
6	ヘッドライト	1	12V 23W
7	サブライト (取付金具付)	1	12V 23W

## 4 潤滑油について

### 推奨オイル

#### 1 エンジンオイル

- ・ 高品質で清浄性のあるAPI分類 SD級以上のオイルを使用してください。
- ・ オイルには、市販の添加剤を加えないで下さい。また、オイルにガソリンは絶対に混ぜないでください。
- ・ マルチグレードオイルの使用の場合は、オイルの消費量が増えますので、通常より油量の点検を頻繁に行ってください。

#### 2 ギヤオイル

- ・ トランスミッションオイルには #90 のものを使用してください。

#### 3 HSTオイル

- ・ 弊社出荷品につきましては、下記油を封入しております。  
【JX DH-1/CF 10W-30】
- ・ 足し油をされる場合につきましては、同メーカーの10W-30のCF級以上のグレードの油を使用ください。
- ・ 作動油交換 (50%以上の油の交換)  
油の劣化、油洩れ等で作動油の50% (200cc以上) を交換される場合につきましては、内部油をすべて抜き取った後弊社推奨油を使用して下さい。